

令和7年度 前期 学校評価

鬼北町立日吉小学校

【評価基準】 A:80%以上達成 B:70%以上達成 C:60%以上達成 D:60%未満

重点目標	評価指標				評価	評価	○考察 及び ●改善方法
確かな学力	1	①しっかり考え、伝え合う授業を実践している。	教師	しっかり考え、伝え合う授業を実践している。	B	A	○少人数ではあるが、一人一人が自分の考えを発表できる雰囲気づくりができています。 ○様々な機会を通して自分の意見を発表できる場の設定に努めた。児童の意欲は高まってきているので、より分かりやすく伝える力を付けていく必要がある。 ●情報を整理し、考えを深める学習が主体的に行えるような授業展開の工夫に取り組む。 ●互いの発表に対して質問や感想を交流するなど「言葉のキャッチボール」ができる取組を継続していく。 ●感想発表の際に、安易な感想にならないように、問い掛けを行いながら深めていく。
			保護者	子供の学級では、しっかり考え、伝え合う授業を行っている。	A		
			児童	学校で、しっかり考え、話し合い活動に進んで参加している。	A		
	2	②基礎・基本が確実に定着し、家庭学習の習慣が身に付いている。	教師	基礎・基本が確実に定着し、家庭学習の習慣が身に付いている。	B	B	○基礎的・基本的な学力、家庭学習（特に自主学習）については、個人差がある。個に応じた指導を充実させていく必要がある。 ○学級内での人間関係作りや、「聞く力」の育成に努めている。 ●継続的な個別指導や家庭への協力依頼を行うことで改善を目指す。 ●ナビマやEILSを活用を継続しながら、基礎・基本の定着を図る。
			保護者	子供は、基礎・基本が定着し、家庭学習の習慣が身に付いている。	A↑		
			児童	家庭学習がきちんとできている。	A		
	3	③読書に親しんでいる。	教師	1週間に1度は図書室に行き、図書の貸し出しを利用し、みきゃん通帳に記入している。	A	B↓	○毎週末に、図書室を利用することや、みきゃん通帳に記入することについて声掛けを継続してきた。昨年度に比べ、全体的に向上している。 ○本をよく借りる児童とそうでない児童との差は大きい。 ●週末には図書館で本を借りていることを確認し、家庭学習に必ず読書を取り入れる。また、ファミリー読書も継続して行っていく。そして、児童の読書の様子について見取りや励ましを行いながら意欲を高める。 ●物語に出てくる食べ物を出す「物語給食」を実施し、本に親しもうとする意欲を育てる。
			保護者	子供は、図書室の利用を行い、家庭でも読書を行っている。	A↑		
			児童	1週間に1度は図書室に行き、図書の貸し出しを利用し、みきゃん通帳に記入している。	B↓		
評価 学校関係者意見	○少なすぎる人数での大変さはあると思うが、細やかな指導ができる点ではメリットである。 ○基礎・基本については、しっかりやらせることが大事である。 ○意見や感想発表の場で、友達と「同じです。」ではなく、自分の意見や考えを自分の言葉で話せるように、コミュニケーションを繰り返しながら、表現できる児童を育ててほしい。 ○読書意欲を高める工夫がいろいろとされていることに頭が下がる。個人差もあるが、自発的に読みたいと思える本に出会えることを願う。 ○読書では、興味のある本を選ぶと思うが、他人が選んだ本を発表する場を与え、いろいろなジャンルの本に触れさせ、世界を広げてほしいと思う。				学校の対応	○活動の目的やめあてをしっかりと指導し、自分の考えを発表する場を多く設定することで、自分の言葉で思いを伝えられる児童の育成に努めていく。 ○少人数の利点を生かしながら、個に応じたきめ細やかな指導ができるようにする。また、身に付けさせたい力を明確にしながら指導を行うことで、基礎・基本の定着を目指す。 ○今後も様々な工夫をしながら、進んで本を借りたり、いろいろなジャンルの本に目を向けたりするような読書意欲の向上を図る。	

重点目標	評価指標				評価	評価	○考察 及び ●改善方法
豊かな心	4	④地域の人々との交流活動や自然体験を取り入れた学習を実践している。	教師	地域の人々との交流活動や自然体験を取り入れた学習を実践している。	A	A	○地域の方々に協力していただきながら、郷土学以外にも生活科や特別活動において学習を進めることができた。 ●あらゆる教科において、関係諸団体との連携を図りながら、人・もの・こととの関わりを深めていく。 ●郷土学を中心に内容の充実を図り、地域人材の確保や開発に力を入れていく。
			保護者	学校は、地域の人々との交流活動や自然体験を取り入れた教育活動を実践している。	A		
			児童	日吉の人たちといっしょに勉強したり、日吉について調べたりした。	A		
	5	⑤進んで挨拶や返事ができる。	教師	進んで挨拶や返事ができている。	C↓	A	○少しずつ声は出てきていると感じるが、特定の場面でしかできない児童がいる。また、相手の顔を見ながら挨拶をすることについても課題を感じる。 ○外来者に対しても、教師からの働き掛けがないとできない場面も多い。 ●毎朝の玄関での迎えの際に教師が率先して挨拶を行い、集会時等に挨拶の良い児童や通学班を取り上げ賞賛することで、進んで元気な挨拶をしようとする児童を育成する。 ●「いつでも、どこでも、だれにでも」をこれまで以上に意識させるよう、教職員全員で声掛けを継続していく。
			保護者	子供は、進んで明るい挨拶や返事ができている。	A		
			児童	進んで明るい挨拶や返事ができている。	A		
	6	⑥きずな班活動を通して、仲間づくりに努めている。	教師	きずな班活動を通して、仲間づくりに努めている。	B↓	A	○きずな班での活動だけでなく、給食や掃除の場面等でも温かい仲間づくりができていると感じる。学校全体で互いに思いやる心が広がっていると感じる。 ●小規模校の良さを生かし、さまざまな機会にきずな班での活動を意識して設定していく。また、活動の意義を事前にしっかりと指導し活動に望ませることで児童に思いやりや協働の意識を持たせる。
			保護者	子供は、学級やきずな班の活動を通して、仲良く活動している。	A		
			児童	友達の気持ちを考え、認め合い、協力し合って、楽しい学校生活が送れている。	A		
	評価委員会 学校関係者意見	○人とかかわりの中で、地域との絆や仲間づくりを大切にしてほしい。 ○気持ちの良い挨拶は、日常生活を潤す基本である。継続した指導をお願いしたい。 ○相手がしたら挨拶をするということが見受けられます。自発的に挨拶ができる児童に育ってほしい。 ○学校や登下校では挨拶ができているが、休日や町中ではできていないこともあります。大人から積極的に挨拶を心掛けるようにしたいと思う。 ○きずな活動は、少人数グループで仲良くできていると思うが、馴れ合いになり、目上の人に対する正しい言葉遣いができているか、児童に意識付けさせてほしい。				学校の対応	○地域の人々との交流を大切にしながら、ふるさと日吉に愛着を持つ児童を育てる。 ○地域の人々が常に日吉小学校児童のことを見守ってくれていることを知らせ、気持ちの良い挨拶で地域を元気付けることを意識させていく。 ○あたたかな雰囲気を大切にしながらも、挨拶や言葉遣いなどの礼儀についてはしっかりと指導を行う。

重点目標	評価指標				評価	評価	○考察　及び　●改善方法
健やかな体	7	⑦「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣化が図られている。	教師	「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化が図られている。	B	A	○元気アップ週間では、朝食の摂取率は100パーセントであったが、朝食を取らずに登校してくる児童もいる。朝食の大切さについて保護者に理解してもらいながら、生活習慣作りに努めたい。 ○休みの日についても、早寝・早起きの習慣が乱れないよう保護者と共に取り組んでいく必要がある。 ●保健日より、給食日より、学校保健委員会、日常の給食などの機会を利用し、児童への指導や家庭・地域への啓発を行っていく。 ●保健介護課との小児生活習慣病予防教室を活用し、「朝ご飯の大切さ」について児童や保護者に訴え掛けていく。
			保護者	子供は、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付いている。	A		
			保護者	家庭で、子供が「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付くように取り組んだ。	A		
			児童	「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付いている。	B↓		
	8	⑧楽しく運動を続けている。	教師	体育の時間や昼休みなど、自分から進んで体を動かそうとしている。	A	A	○全校遊びや学級遊びの時間を通して、進んで体を動かそうとする児童が増えている。 ○家庭においては、運動習慣のないところもあり、家庭を巻き込んだ体力づくりに取り組んでいく必要がある。 ●熱中症対策を行いながら、外遊びや体を動かすことを奨励していく。 ●家庭でも気軽に組み入れるような運動の提案を行う。
			保護者	子供は、家庭でも継続的に体を動かす取組を行っている。	B↓		
			児童	体育の時間や昼休みなど、自分から進んで体を動かそうとしている。	A		
	9	⑨元気で学校に通学し、明るく学校生活を送っている。	教師	元気で学校に通学し、明るく学校生活送っている。	A↑	A	○学校だけでなく、家庭や地域で支えていただきながら、児童は元気に学校に通うことができた。 ○朝は暗い顔をしていても、活動を行ううちに明るく元気になる児童もいる。一人一人に活躍の場が与えられるような学校づくりを進めていかなければならない。 ●児童の小さな変化を見逃さないよう共通理解を図りながら、全教職員で子供を育てるという意識を持ち、互いの良さを認め合えるあたたかい学校づくりを目指す。
			保護者	子供は元気に学校に登校し、明るく学校生活を送っている。	A		
			児童	元気で学校に登校し、明るく生活している。	A		
評価委員会 学校関係者 意見	○早寝、早起き、朝ご飯を基本に、しっかりと基本的な生活習慣が身に付き、家庭や学校で自分の居場所づくりができることを願う。 ○早起きをすれば、早く眠くなる。先ず早起きからチャレンジさせ、その時間に体を動かしたり、一緒に朝ご飯を作ったりなどお家の方との時間をつくる。また、朝学習をするなどしてはどうか。 ○年々暑さが増している。熱中症への理解を深め、自分の身体や命を大切にする意識を高めてほしい。また、外での運動は難しいが、今後も継続した工夫を願う。				学校の対応	○生活習慣についてのチェックを継続的に行い、その結果をもとに、家庭への呼び掛けを行う。 ○早起きや朝ご飯に関する家庭を巻き込んだ取組を行い、基本的な生活習慣の定着の大切さについて知らせる。 ○天候に応じて児童自ら判断し行動できるよう、熱中症や感染症に対する理解を高める。	

重点目標	評価指標				評価	評価	○考察 及び ●改善方法
学校・家庭・地域の連携	10	⑩ ホームページ、学級通信・学校だより等で学級の取組を発信している。	教師	ホームページ、学級通信・学校だより等で、学校の取組を発信している。	B↓	A	○ホームページや学校だより、ボランティア通信などで、児童の様子を発信することで、開かれた学校づくりの一助となっている。学級通信の取組については改善や工夫が必要である。 ●学校での児童の様子や、学級担任の思いを届けられるように、定期的に学級通信を発行する。
			保護者	学校は、ホームページや学級通信・学校だより等で、子供の様子や学校の取組を発信している。	A		
	11	⑪ 人・こと・もののかかわりを通して、開かれた学校づくりに取り組んでいる。	教師	人・こと・もののかかわりを通して、開かれた学校づくりに取り組んでいる。	A	A	○郷土学や総合的な学習の時間等を中心に、日吉地域の豊かな「人・こと・もの」と関わることで、地域に開かれた学校・学級づくりが展開されている。 ●今後も地域行事に積極的に参加したり、地域ボランティアの方々との交流を密にしながら、協働できる素地を培っていく。
			保護者	学校は、学校行事やPTA活動を適切に設定し、開かれた学校づくりに取り組んでいる。	A		
	12	⑫ 保護者・地域住民・教職員と連携して教育活動を行っている。	教師	保護者や地域住民と連携して教育環境の整備・充実を図っている。	A	A	○奉仕作業や古紙回収など、保護者・地域の方の協力ありがたい。 ○教育懇談会で地域の方々の思いや意見を頂けるのはとても貴重であり参考になることが多い。 ●参観日や学校行事など、多くの方に参加していただけるよう広く広報活動を行う。 ●様々な立場の人と協働できる場の設定について工夫していく。
			保護者	学校は、保護者・地域住民・中学校と連携して教育活動を行っている。	A		
評価委員会 学校関係者 意見	○メディアを活用し、児童や学校の様子がよく流れるので安心できる。 ○ホームページの毎日更新は難しいとも思うので、休みがあってもよいと思う。 ○日吉地域の「人・こと・もの」との関わりで、子供たちは貴重な体験を積み成長できることが素晴らしいと感じる。 ○6月に実施している「救命救急法講習会」に、地域の方に参加を促してみてはどうか。毎年、夏に水辺の事故のニュースを見るたび、自分がその場にいたら・・・と考えてしまう。講習会に、年に1度でも参加し、継続的に体験することで、いざという時に備えたいと思う。				学校の対応	○今後も様々なメディアを活用しながら、学校の情報を提供する。 ○「人・こと・もの」との関わりが、さらに児童にとって貴重な体験となるよう、活動の目的や、人々の願いについて理解させる。 ○6月の救命救急法講習会については、来年度は地域にもPRし、参加者を募る。	